



【先週 1月2日～1月8日の外食の出来事】

■令和2年の外食産業市場規模 前年比30.7%減の約18兆円 JF

令和2年の外食産業は、新型コロナウイルス感染症の発生により、深刻な影響を受け市場規模は前年比30.7%減少の18兆2005億円と推計された。前年より8兆679億円減少し、20兆円を下回るのは、昭和60年以来となる。

■11月の外食売上高0.2%減 時短解除で前年並みに回復 日本フードサービス協会

11月の外食売上高(全店ベース)は、前年同月比0.2%減とほぼ前年並みだった。新型コロナウイルス感染拡大前の2019年11月比では8.2%減だった。全体の売上高が前年実績を下回るのは4カ月連続。

■11月の求人広告件数、前年同月比26.5%増 飲食けん引

人材サービス会社でつくる全国求人情報協会がまとめた11月の求人広告掲載件数(職種別、週平均)は2020年11月比26.5%増の109万2349件だった。ただ19年11月比では3割少なく、人材需要の復調は道半ばだ。

■壱番屋、第3四半期(2020年3月～11月)の連結業績

2022年2月期 第3四半期の連結業績は売上高331億1600万円(対前年同期比0.5%増)、営業利益19億4500万円(同1.3%減)、経常利益30億3700万円(同29.5%増)、四半期純利益23億500万円(同58.3%増)。

■ハイデイ日高、最終黒字17億円 22年2月期 協力金効果

2022年2月期の単独税引き損益が17億円の黒字になる見通しだと発表した。従来予想(10億円の黒字)を上回る。営業赤字幅は拡大するが、営業時間の短縮要請に伴う時短協力金が想定より多い57億円に増える。

■豊洲市場で「初競り」 マグロ最高値1688万円

5日午前5時過ぎから、新春恒例の「初競り」が行われ、1本211キロの大間産のクロマグロが、最高値の1688万円で競り落とされた。「銀座おのでのら」などを運営するオノデラグループと水産仲卸「やま幸」が共同で落札した。

■あみやき亭、1億円黒字 10～12月最終、時短協力金が寄与

2021年10～12月期の連結決算は、最終損益が1億3200万円の黒字だった。売上高は6%減の64億円となったが、営業時間の短縮要請に従い、自治体からの協力金など助成金収入4億6千万円を計上した。

■餃子の王将、12月も年末需要で過去最高 3ヶ月連続

12月の直営全店売上高は70億40百万円、107.6%。これは店内売上が107.5%と前年を大きく超えるとともに、テイクアウト・デリバリー売上も年末にかけての利用増等により107.8%と高水準を維持した。

■GoToトラベル再開、当面見送り

政府は6日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、観光支援事業「Go To トラベル」の再開を当面見送る方向で調整に入った。早ければ1月下旬の再開を目指していたが、2月以降にずれ込む見込みだ。